



TITLE:

図書館の動き

AUTHOR(S):

CITATION:

図書館の動き. 静脩 2000, 36(3): 17-18

ISSUE DATE:

2000-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37559>

RIGHT:

..... 図書館の動き

京都大学図書館外部評価

京都大学には60を超える図書館・室があります。これらの図書館・室のあり方は、「調整された分散方式」と言われていますが、分散はしているが果たして調整されているといえるのか問題のあるところ。昨今、大学のあり方が問われ、京都大学の事務部門では事務の合理化、省力化のため事務改善検討委員会が設置されており、図書業務についても図書事務改善検討部会で改善の検討が続けられています。

附属図書館は、今年創立百周年を迎えたのを契機に、京都大学図書館全体のあり方を考えてみよう、部局の図書館・室と一緒に検討を行っています。まず7月下旬に、全学利用者アンケートを行いました。現在回答や意見を集約し、利用者の皆さんの要望に応える努力をしています。また、11月から全部局図書館・室が自己点検・評価で「現状と課題」を検討しました。さらに、外部の識者の点検評価を受けるべく外部評価委員会を設置し、第1回外部評価委員会を11月5日に行いました。第2回を平成12年1月に開催し、外部評価がとりまとめられる予定です。

3月には図書館利用者アンケート、「現状と課題」、そして外部評価を報告書としてまとめ、新しい世紀に向けて、京都大学の図書館の展望を探っていきたいと思っています。

日米DDS試行実験はじまる

日米の大学図書館間での文献複写サービスの可能性を検討するために、標記の試行実験を12月から開始しました。本実験は、文献複写の依頼及び資料の送付等文献複写業務における全ての過程がインターネットを利用して電子的に行われることが特徴です。文献複写の依頼や連絡は電子メールで行なわれ、資料はスキャナによりページイメージでコンピュータに取り込まれ、FTPあるいは電子メールの添付ファイルで依頼図書館に伝送されます。このようなサービスはDocument Delivery Service (DDS)と呼ばれ、複写文献の迅速な提供が可能となり、今後の図書館サービスの一つとして大きな期待が持たれています。アメリカでは既にRLG (Research Libraries Group)が開発したArielと呼ばれるシステムによりDDSが実運用されています。日本でもいくつかの大学でArielを利用したDDSが試行され、またミノルタ製の上向きスキャンを使ったシステム (EPICWIN)の開発も行われています。今回の実験では、両システムを使用することによる依頼・伝送に係わる技術的・手続き的な問題を解決すると共に、日米間でどの程度文献複写の利用があるかを把握することを目的としています。

実験には、日本側7機関（北海道大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、京都大学、慶応義塾大学、学術情報センター）とアメリカ側10機関（University of California-Berkeley, University of Chicago, Columbia University, Duke University, Harvard University, North Carolina State University, University of Oregon, University of Pittsburgh, University of Texas at Austin, University of Washington）が参加し、来年の3月まで行なわれます。

京都大学ではEPICWINを使用し、既にいくつかの大学との間でテスト文献の送受信に成功しています。お探しの資料で日本国内に所蔵が見つからない場合は、相互利用掛にご相談ください。

オンライン目録100万件突破！

10月22日、OPAC（オンライン目録検索システム）への登録件数が京都大学で100万件を突破しました。記念すべき100万件目のレコードは偶然にも、工学研究科地球系図書室所蔵の『京都大学百年史』でした。入力者である藤山優美さんには、菊池館長より記念の「盾」が贈られました。

100万件突破という偉業も、脈々と受け継がれてきた、全学の図書館・室の地道な努力の結果と言えます。しかしながら、京都大学の全蔵書数から見ると入力データは未だ6分の1にすぎず、今後も、600万冊近い蔵書の目録データベース化へむけて、より一層の努力でOPACの拡充につとめていきたいと職員は張り切っています。また、そのための経費の確保も望まれているところです。

総合人間学部図書館は、平日午後8時まで開館

総合人間学部図書館では、平成11年12月1日から平日の時間外開館を実施しています。閲覧、貸出、返却等、1階閲覧室は午後8時まで利用していただけます。「5限目の授業終了後もゆっくりと図書館へ来てください」と言えるようになりました。また、今年度の学長裁量経費で2階閲覧室の机と椅子の更新が認められ、春には新しい雰囲気になる予定です。（総合人間学部図書館 閲覧掛）

C O N T E N T S

京都大学附属図書館創立百周年記念式典に際して	1
式辞	4
祝辞	7
京都大学附属図書館創立百周年記念式典	10
新企画：地域・子供文庫も展示参加へ	11
附属図書館百周年	
『静脩』総目次を読む(3)	12
次の百年	15
教官寄贈図書一覧	16
図書館の動き	
京都大学図書館外部評価	17
日米DDS試行実験はじまる	17
オンライン目録100万件突破	18
総合人間学部図書館は、平日午後8時まで開館	18

編集後記

2000年あけましておめでとうございます。昨年は附属図書館創立百周年にあたり、外部評価、『静脩』臨時増刊号の発行、記念展示会、式典と目まぐるしい年でした。

『静脩』臨時増刊号は、時間と紙幅の制約から一部の方々の記事を掲載することしかできませんでした。今回から1年間、百周年関連記事を掲載することにしました。ぜひとも原稿をお寄せください。(G)